

音楽科学習指導案

2年4組 26名 指導者 福留三穂

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 既習教材を活用したり、自他への評価意識をもたせたりすることが、豊かな表現へと導く手立てになっているか。

1 題材 ドレミで あそぼう

- 「ドレミの うた」 ペギー葉山 作詞／リチャード ロジャーズ 作曲
- 「ドレミあそび」
- 「かっこう」 小林純一 作詞／ドイツ民謡／浦田健次郎 編曲（本時）
- 「かえるのがっしょう」 岡本敏明 作詞／ドイツ民謡
- 「ぷっかり くじら」 高木あきこ 作詞／長谷部匡俊 作曲

2 目標

歌ったり身体表現をしたりして、拍の流れを感じ取ったり、音高感を身に付けたりすることができるようにする。

階名で模唱や暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする。

3 題材の評価規準

- 階名唱に興味をもって、進んで歌ったり身体表現をしたりしようとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- 拍の流れや音の高さを感じ取って、歌い方や身体表現を工夫している。【音楽的な感受や表現の工夫】
- 旋律を階名で暗唱したり、楽器で演奏したりすることができる。【表現の技能】
- 音楽に合わせて身体表現をしながら聴くことができる。【鑑賞の能力】

4 指導計画（総時数15時間）

主な学習活動【評価規準】	時間
1 題材「ドレミで あそぼう」の教材曲を聴いたり歌ったりしながら、題材への思いや願いをもち、学習計画について話し合う。【関：教材曲に興味・関心をもち、進んで学習計画について話し合おうとしている。】	1
「ドレミの うた」	
2 音楽に合わせて楽しく歌ったり、ドレミの体操などの身体表現をしたりする。【鑑：音楽に合わせて歌ったり、身体表現をしたりすることができる。】	1
「ドレミあそび」	
3 ドレミの体操を取り入れ、ドレミの音の高さをつかむ。【関：進んで階名唱をして遊んだり、歌ったりしている。】	1
4 短いふしを階名唱しながらドレミの体操をしたり、交互唱をしたりして遊ぶ。【技：音高を感じながら正しい音高を表現することができる。】	1
「かっこう」	
5 歌ったり階名唱をしたりして、曲の感じをつかむ。【関：進んで歌ったり階名唱をしたりしようとしている。】	1
6 拍の流れに乗って、旋律を鍵盤ハーモニカで演奏する。【技：拍の流れに乗って一定の速度で旋律を演奏することができる。】	1
7 リズムフレーズを手拍子で打ったり、楽器で演奏したりする。【技：拍の流れに乗って、3拍子のリズムを表現することができる。】	1
8 歌や楽器の演奏に合わせて、リズム伴奏をする。【感：拍の流れに乗って、リズム伴奏を工夫している。】	1
「かえるのがっしょう」	
9 曲の感じをとらえながら歌ったり、旋律を楽器で演奏したりする。【技：階名唱をしたり、楽器で演奏したりすることができる。】	1
10 拍の流れやフレーズを感じ取りながら歌ったり、旋律を楽器で演奏したりする。【感：拍の流れやフレーズを感じ取って、歌い方や演奏を工夫することができる。】	1
11 二組に分かれて、二部輪奏を楽しむ。【関：楽しんで二部輪奏に取り組んでいる。】	1
「ぷっかりくじら」	
12 曲の感じをとらえながら歌う。【感：楽曲全体の気分を感じ取って、身体表現を工夫している。】	1
13 副次的な旋律を練習する。【技：階名暗唱をして、副次的な旋律を演奏することができる。】	1
14 歌の主旋律と楽器による副次的な旋律の響き合いを感じて演奏する。【技：歌と楽器の音が重なる響きを楽しんで、演奏することができる。】	1
15 短いふしをつくり、楽器で演奏する。【関：進んで好きなふしを進んでつくり、楽しんで演奏しようとしている。】	1

5 本時（6/15）

(1) 目標

拍の流れに乗って旋律を楽器で演奏することができるようにする。

(2) 評価規準

拍の流れに乗って一定の速度で旋律を演奏することができる。【表現の技能】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、範奏を聴いたり実際に歌ったりすることで、情景を思い出させる。また、階名唱やドレミの体操をすることで、音階や3拍子のリズムを想起させる。さらに、3拍子の演奏には、どのような拍の流れが大切であったかを考えさせることで、本時のめあてに結びつける。「見通す」過程では、鍵盤ハーモニカで演奏するとき気を付けることや学習の進め方を確認するとともに、「ききタイム」を目標に練習していけばよいことを知らせる。「追究する」過程では、全体で練習した後、グループ活動をさせる。また、掲示資料や電子オルガンを活用することで、子どもたちが進んで拍の流れを感じることができるようになる。「磨き合う」過程では、聴く前に聴くポイントを確認し合うことで、観点をもって聴くことができるようになる。また、振り返りカードを用いることで、互いに評価し合ったことを生かして、さらに表現が高まるようにさせたい。「振り返る」過程では、互いのよさを認め合うことで成就感を味わえるようにするとともに、自分なりのめあてをもたせて次時への意欲付けを図るようになる。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識

教師の手立て ※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
7	つかむ	1 「かっこう」の範奏を聴き、階名を唱したり、ドレミ体操で表現したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・かっこうの音が、森の中から音が聞こえてくるようにやさしく歌うとよかったよ。 ・ドレミの体操は、1・2・3のながれに合わせてするといいな。 	<p>本時の学習に入る前に、「音タイム」を設け、3拍子の音楽を聴かせたり、音楽に合わせて身体表現させたりする。</p> <p>前時の学習で話し合った曲の感じをもとに、学習のめあてを考えさせる。</p>
		2 学習課題と追究方法を確認する。 1・2・3のながれに合わせてえんそうしよう。	<p>「ききタイム」でお互いの演奏を聴き合うことを知らせておく。指番号や手の置き方については、掲示資料等を参考にして、常に気をつけさせるようにする。</p>
22	見通す	3 学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・かっこうが呼んでいる感じが出るように演奏できるようにになりたいな。 ・階名唱を暗唱しているかもう一度確かめたいな。 ・指番号を覚えていないから、指番号をみんなでき確認したいな。 ・グループ練習した後に、「ききタイム」があるね。 	<p>最初は一斉練習を行い、気を付けることを全体で確認する。また、電子オルガンのメトロノーム機能を使って、拍の流れをとらえさせるようにする。</p>
		4 グループに分かれて練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・指番号の空練習をみんなでしてみよう。 ・3段目の「ほうらほうら」は、1段目と似ているけれど、音の長さが違うから、気を付けよう。 ・1拍休むのを忘れてしまうから、1・2・3のながれに合わせて、3拍目の休みをわすれないようにしましょう。 ・指がすらすらと動かないから、ゆっくりとした速さで練習してみよう。 	<p>※ 拍の流れに乗って一定の速度で旋律を演奏することができる。(演奏の仕方)</p> <p>○ 拍の流れに乗って演奏できている子どもには、音や指使い、タンギングの仕方が正しいかを確認するように助言する。</p> <p>○ 練習がうまくいかない子どもには、階名唱をして音を確認めたり、ゆっくりとした速さで練習したりするように助言する。</p>
13	磨き合う	5 「ききタイム」で練習の成果を発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・1・2・3のながれにあっているね。 ・音を切らないで吹いているから、きれいな音色だね。 ・3段目の「ほうらほうら」の部分を、強く吹いたり弱く吹いたりしているね 	<p>振り返りカードをもとに学習の成果を発表し合い、よくなった点に気付かせる。発表するときには、音色や速さ、拍の流れといった音楽を形づくっている要素を表す言葉を用いるようにさせる。</p>
3	振り返る	6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱を暗唱すると、すらすらと演奏できるようになったね。 ・1・2・3のながれに乗ると気持ちよく演奏できたよ。 	<p>本時のめあてをもとに学習を振り返らせ、次時の学習への意欲や課題意識をもてるようにする。</p>